

## 第 11 期第 9 回 会議要旨

平成 29 年 12 月 19 日 (火)、第 9 回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、これまでの会議を振り返りながら、今期のテーマ「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」について最終討論をしていただきました。また「ちよだ生涯学習カレッジ」について、第 3 期生入学募集案内について意見交換をしたほか、ちよカレ事務局から 2 コース目「千代田まちマイスターコース」のカリキュラム(案)の提示を受けました。

### 「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」

#### テーマについて最終討論

##### 第 1 期生の卒業について

○ちよカレ第 1 期生は、1 回目の卒業生として、後に続く学生に「こんなことができるんだ」と示す必要がある。そのために、ある程度卒業後の道筋をつけてあげ、卒業後すぐに活動できるようにサポートすることも必要なのではないか。

○生涯学習連絡会では、参加機関から「学生がどういう人材なのか、もう少し具体的にわかれば」という意見があった。つまり、第 1 期生の卒業後の活躍が今後のモデルになってくると考えられる。

○学生は入学時と卒業時で、将来どんな活動がしたいかが変わってくると思う。我々が闇雲に卒業後の活動を考えてつなげるのではなく、入学時にアンケートをとっておき現在の希望とともに調査をすると、より検討しやすくなるのではないか。また、入学時と卒業時の差を取ることで、「ここで学ぶとこれだけ変化が出て、結果このようになった」とこれからの学生へのロールモデルとしても見せやすくなるのではないか。

##### ボランティア活動について

○ちよカレ生は 7 月に卒業するため、年度単位に合わせた活動ができない。  
⇒ボランティア活動に目を向ければ、活動の場はたくさんあるのではないかな。

○学校現場では、地域の方々にお越しいただいて活動をすることが多い。関心が高いボランティア希望者と学校とのニーズが合致すれば、継続的にボランティア活動ができる可能性もあると思う。ボランティア希望者の情報がたくさんそして簡単に入手できるようになるとよい。

○講座のティーチングアシスタントになってもらってはどうか。

○ボランティアセンターでは、実際に第 1 期生の方で「ちよとも」というボランティアグループで活躍されてる方もいる。具体的にどんなことをやりたいのかがわかると、地域で活動しているボランティアグループと一緒に地域課題を解決していくというところで、力が発揮できるのかと思う。



## ボランティア活動について（つづき）

○美術展において、地域の高齢者施設の方の移動を手助けするボランティアはある。しかし、美術展に興味がない高齢者施設などや、実際に美術展への移動の間で、美術展の案内や見どころ説明をしてくれる人がいれば、現地でよりプラスになる説明ができ、より興味を持ってもらうことができる。美術展に限らず千代田区にはイベントがたくさんあり、実際に行けない人のためのボランティアもあるので、その間に立つコーディネーターがいれば、よりイベントが盛り上がると思う。

## 子どもに関して

○近年、発達障害の子どもが増えており、児童・家庭支援センターにも多くの子どもが在籍している。このような子どももいるということを視野にいれていただきたい。

○今、家庭と地域と学校が一体になって教育を進めていて、最終的には子どもたちが地域に貢献できるような人材育成を目指している。直接人と関わりをもって学ぶことで、子どもたちがいずれ恩返しできるようにつながると思う。

## 千代田区らしさについて

○千代田らしさをどうプロデュースしていくのかが大切。たとえば、他自治体の市民カレッジの学生は比較的高齢者であることが多いが、ちよカレは在勤の若い人が多い。また、千代田区はマンションが多いが、最近はマンションに関する事件も起こっている。地縁、社会関係資本など、千代田区の特徴とちよカレをどうつなげていくかがすごく気になっている。

○他市の市民カレッジでは、働いている人は帰宅すると7時を過ぎてしまうため、時間に余裕のある人しか参加できなかった。一方ちよカレでは、区外在住者でも在勤者として、千代田区で学びデビューすることができる。これも千代田区らしさである。この意味では、ちよカレ申込資格の「在住・在勤・在学」の要件をなくすと、より多くの人にとっての生涯学習活動が広がるのではないかな。

○千代田区らしさについて考える際、いつも歴史に関することになりがちだが、人口の構成などの要素も大事である。

## 企業との連携について

○学校では、小学校の社会科見学などで地域の商店などの企業と関わることもある。卒業生が企業へアプローチできた場合、学校への貢献だけでなく企業の地域参加にも貢献できるのではないかな。

⇒企業との連携については、アプローチの仕方も含めて今後検討を重ねる必要がある。

○児童館のボランティアとして活動している中で、企業が扱っている素材を児童に実演しながら見せる、というカリキュラムがあった。そういう企業の方の中には、このような提案をされる方もいるのではないかな。

○企業の場合には、社員として個人で活動するだけでなく、場合によっては企業全体の協力を得るまで発展する可能性もあるのではないかな。そうなれば、個人による協力とは違った効果も期待できる。





## デビューの場の提供について

○ロバート・D・パットナム「孤独なボウリング」では、地域コミュニティの崩壊について論じられており、その問題に関し、今でも強く心に残るのは、ロンドンオリンピックの最終聖火ランナーである。近年の最終聖火ランナーはしょうがい者や少数民族などマイノリティの人から選ばれることが多いが、ロンドンオリンピックでは、普通の若者が選出された。一見マイノリティ化していないと思われるが、実は彼らはその地域から排除されたマイノリティだった。この若者たちにデビューの場を作り、連帯や希望を託すという面でプロデュースをした場が、最終聖火ランナーだったのである。デビューの場については、併せて千代田の魅力も伝えていけるようにできるとよいと思う。

○卒業生の活動の場の提案は、場合によっては押し付けになってしまうこともある。たとえば同じボランティアををするとしても、自己有用感のため、やりたかったことができるようになったという達成感のため、良いことをしたという他者からの評価のため、と理由はおそらく人によって違う。デビューの場の提供についても、これらを考慮する必要があると思う。

○卒業後のネットワークをどうつくっていくのが非常に大事である。それが結果的に社会関係資本、ソーシャルキャピタルにつながり、最終的には生涯学習大学がこれをつくっていくのだろうと思う。

## 「ちよだ生涯学習カレッジ」について

### 第3期生の募集案内について

(事務局より)

今年の第2期生募集に際し、当初は定員に満たなかったため「二次募集」を実施した。次の第3期生募集に際し、募集要項にこの「二次募集」について記載するかどうか。

### 委員からの意見

○あらかじめ記載しなくても、チラシを作成して募集要項にはさみこんだり、表紙などにシールを貼ったり、あとから情報を追加する方法もある。

○応募する側としては、応募しようと考えていたものの悩んでいるうちに応募期日を過ぎてしまう、ということもある。あらかじめ二次募集がある可能性を示していれば、そのような方々のためになると思う。

### 2コース目「千代田まちマイスターコース」のカリキュラム(案)について

○コース長：仲川 秀樹 先生  
(日本大学文理学部教授／社会学)

- 基礎Ⅰ 「千代田区学・コミュニティ論」  
(自分＝個人と地域、千代田区)
- 基礎Ⅱ 「生涯学習概論」  
(生涯学習入門、大人の学び合い)
- 専門Ⅰ 「シンボリックにみる千代田のまち」  
(概要・総論)
- 専門Ⅱ 「メディア的にみる千代田のまち」  
(各論・トピック)
- 習熟Ⅰ 「千代田のまちを实践する」  
(実践・フィールドワーク)
- 習熟Ⅱ 「千代田まちマイスターへの道」  
(プレゼン・成果発表)

(補足)  
オープンカレッジについて

2年目を迎えた「学びと地域のコーディネーター養成コース」第1期生が、「学びでつなごう 地域の輪」をテーマに、学ぶ面白さに触れる一日を皆さんに提供します。

どなたでもお気軽にご参加いただけます。ちよカレ体験をしにぜひいらして下さい。子育て中でも安心して参加できるようお子様スペースもご用意しております。

○日時 3月4日(日) 10時～16時  
○会場 九段生涯学習館(九段南1-5-10)  
○託児サービス 1歳以上の未就学児を対象。  
2月25日(日)までに要予約。

○講演会 13時～14時20分  
「つくる学びとわかる学び」  
課題の解決に向けて、「学び」という視点で考える。  
講師：佐藤晴雄氏  
(ちよだ生涯学習カレッジ学長)

佐藤会長による講演会です！  
ぜひご参加ください！！



## リレー随筆 No.13

### 「大人の教育、子どもの教育」

佐藤 晴雄

「学び」とは「まねび」に由来する言葉です。つまり、まねをすることです。私たちは文字を習得するために、お手本通りに鉛筆で文字をまねしました。典型的な例が「習字」です。一方では、考える学び、深い学びが重要で、「学び」は単にまねて覚えることでは十分でないと言われます。

ところで、アメリカの成人教育学者のノールズは、子どもの教育の在り方をペダゴジー、大人の教育の在り方をアンドラゴジーと名付けました。後に、子どもにもアンドラゴジーによる学びがあり、大人にもペダゴジーの学びがあると修正しましたが、大胆に解釈すれば、ペダゴジーはまねることであり、アンドラゴジーは考える学びに近い概念だと思えます。

韓流ブームの頃、知り合いの高齢者はハングルを熱心に学んでいました。その学びはペダゴジーの概念で捉えられます。小学生が総合的な学習の時間で調べ学習をしています。これはアンドラゴジーの概念に近いように思われます。

そのような二つの視点で学べる機会をつくるのが生涯学習の重要な課題になると言えます。

### 編集後記(事務局より)

第11期第9回のエポックをお送りいたしました。

今回はテーマについて最終討論ということで、どのように学びを紡ぎ、地域を結ぶのか、活発にご議論いただきました。

最後を飾るリレー随筆は佐藤会長でした。報告書作成も重なり大変ご多忙中ご対応くださった会長に、心から御礼申し上げます。

今期のエポックはこれで終了です。皆様、お付き合いありがとうございました。第12期もどうぞよろしく願いいたします。

### 【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課  
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1  
TEL: 03-5211-3632  
FAX: 03-3264-1466  
Email: shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp